



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
TEL:0593-32-0733

## 掲示板法話

### 広くつながり お慈悲が伝わり 支え合いたい

我が国の総人口は二〇〇四年をピーク(二億二千七百八十四万人)として、減少社会に入り十年が経過。少子高齢化の影響が地方でも大都市でも広がっています。先月、日本創生会議・人口減少問題検討分科会が出した「全国の自治体(一八〇〇市区町村)の約半分(八九六自治体)が二〇四〇年には消滅する可能性が高い」という予測には大きな衝撃を受けました。そのような地域に住む人々の衝撃、不安は計り知れないものがあります。

地域を活動基盤とするお寺もまた、例外ではありません。家族葬や直葬が増え、葬儀や法事の簡素化が進んでいます。後継者が不在、あるいは実家から離れた所に生活拠点を移しているのと相まって、高齢者世帯、独居世帯が増えている影響だと考えられます。

だが、本当はかけがえのない人生を心豊かに生きたい、安心して人生を全うしたいという願いが消える訳ではありません。むしろそのような潜在的な願いに具体的にどう応えていくのか?新たな「縁」の輪を結んでいく、「開かれた伝道」が求められています。夕方近くになると、地域の子供たち

が鐘つきにやってきました。子供たちのお目当ては鐘つき後の当たりつきガムなのですが、鐘をついた後、参道から本堂の如来さまの方を向いて整列し、合掌、礼拝を励行しています。

先日鐘をつく時刻(5時)よりも少し早い時間に男の子に付き添っておばあさんがやってきました。丁度孫が庫裏で遊んでいる時だったので、お内仏で易しいお勤めを一緒にしてもらいました。男の子はほとんど初めてのお勤めにもかかわらず、ていねいに合掌、礼拝してくれました。誉めると、「この子の母親は早く亡くなったので、私たち祖父母が育てました。親を慕う気持ちでお寺の鐘つきに来るようになったのでしよう」とおばあさんが語ってくれました。

その後も鐘つきにやってくるその子を見ながら、「無縁の大悲」は平等に深く注がれていることを感じました。無縁とは近年「無縁社会」などと言われる、行方不明者の遺骨引き取り手がないという話でなく、本来は「重々無縁の大悲心」ということで、この世の仏縁だけでなく過去世にも限りなく仏様の大慈大悲をこうむつ

てきた私たち、と言う意味です。檀家という範囲を超えて「つながる」仲間にも広く、お念仏の心が「つたわる」よう、「ささえる」われらのお寺でありたいという願いを一層深く抱きます。6月6日には法統継承式が本願寺で執り行われます。

「広くつながり、お慈悲が伝わるよう、支え合う我ら」でありたいと願うばかりです。



☆仏教婦人会主催初参式; 4月19日(土)



史上初めて17名の乳幼児が受けました。にぎやかに

## ☆行事ご案内☆

### 6月の門信徒会例会

6月15日(日)夜7時半

- ① 法統継承式; 真の「新たなる始まり」とは?
- ② 音楽法要の和讃(6首); 唱え方と解説

◇キッズサンガ 6月7日(土) 午後4時お経ゲーム、鐘つき  
◇三重組コーラス6月23日(月) 午後智積西勝寺様で練習  
善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。トップページの左欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が閲覧。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開開設5年10か月で14万4千訪問、コメント、悩み相談、大歓迎!

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話  
15冊目の新刊本『お念仏申してごらん』発売中800円

※新納骨堂が完成! 経堂をリニューアルしてご要望の多い新納骨堂として活用、総会后一般公開、お問い合わせは寺まで  
※新役員決定! 門信徒会長伊崎武男氏、会計館勤氏、婦人部会長館正子氏、新年度三重組連研受講者・服部則男氏  
※親鸞聖人750回大遠忌法要、平成28年5月15日に決定!  
2年後に迫りましたが、皆様の熱意とご協力の結集で、意義あるご法要にしましょう!

☆『三重組仏教講習会』(講師・漢見覚恵先生) 6月14日、15日16日の3日間、14日午後東阿倉川・真楽寺、15日午前午後大井手・浄蓮寺、16日午前午後平尾・福泉寺



# 坊守スケッチ

## 新納骨堂が完成



かねてよりお問い合わせの多かった新納骨堂が、境内地の一角に完成しました。かつて経蔵として建てられたものをリニューアルして、納骨堂として生まれ変わりました。個別納骨壇がご本尊の両脇に安置されています。今回は24基ですが、両脇を増やせる余地もあります。その中にお骨とご位牌を収納し、一基ずつにお名前と鍵がかかるタイプです。5月初め入仏法要を済ませ、5月25日の総会後に一般公開する運びとなりました。

少子高齢化時代に入り、後継者のいない家庭や単身世帯の増加に従って「自分の死後、仏壇やお墓は誰がお守りするの？」という悩みが、近年多く寄せられました。「一人っ子同士の縁組で、仏壇と墓が二軒分も要らない」とか、「転勤族でどこに住むかわからないのでお墓が不要」とか、「将来老人施設に入った時に、仏壇を持ちこめない」とか、悩みは様々。その一つ一つに真摯にお応えする必要から、新納骨堂を思いつきました。

元来、善正寺の境内には、墓地はありません。小杉町は歩いて5分ほどの所に共同墓地があります。地元の人々はその墓地に埋葬されるので、納骨堂の心配は要りません。また垂坂には広大な市営北部墓地公園があります。後継者がいる家族は墓地を購入されお

墓を建立されます。お問い合わせがあるのは、新興住宅地に住んでいる方とか、マンション住まいの人、新しく引っ越してきた人などです。寺報やホームページを見て電話してこられます。今までは「京都の大谷本廟へ納骨に行つて下さい」とご案内していましたが、中には「京都は遠い。近くに置いて、散歩の時でも立ち寄って気軽にお参りしたい。年忌ごとに本堂でお参りもしたい」との要望もあります。

従来は各家庭で勤めていた法事も、高齢化に伴いお世話する家族の負担が大きくなり、寺の本堂を利用する人が増えてきました。お葬式も、かつては地域住民一体となってお世話していた葬儀が、現在は業者任せで、家族葬や直葬などで簡素化され、以前とは全く様変わり。新しい家族の形態を敏感に受け止め、その中で仏法を伝える努力と工夫を、寺側が新提案する必要性に迫られています。

断っておきますが、納骨堂は決してお骨の捨て場所ではありません。葬儀後お骨をここへ預ければ、それでお終いでもありません。お彼岸やお盆にはご案内しますので、事情が許す限りお参り下さい。それをきっかけに仏法を一度でも多く聞いて下さい。

「自分とご縁のある人のお骨をここで預かってもらえるならば、こんな

安心できることはない」と感想を漏らされた方がいます。「遺骨は譲り合い、遺産は奪い合い」では、悲しいことではありませんか？皆さんの心に『安心』を提供できるのが、お寺の役目です。



☆リニューアルオープンの「納骨堂」

### ☆寄稿

☆親と稚(やや) 四日市市 釈 妙水  
目と目の会話 冬うらら

☆何時迄も 一緒といつて 夫(つま) 先に去(ゆ)く  
姫路 釈 貞芳

☆朝夕に 親指十回 内戻し 外反母趾と 気づいてからは 妻(つま) 思うように ならぬ時  
なまんだぶつが 自己を離れて

☆雑草を ひけばその名は 仏の座  
四日市市 釈 俊悦

☆心によりて 筆生ず(横山大観)  
※横山大観は「絵は心で描くことが大切だ」と言い続けた。贋作を作った人が多くの人をだまして泣かせた。外見はそっくりでもニセモノはいつかはバレる。私達は真実を見抜く目と心を養いたいですね。(坊守)

☆Eさんのいいもの紹介

☆心によりて 筆生ず(横山大観)

※横山大観は「絵は心で描くことが大切だ」と言い続けた。贋作を作った人が多くの人をだまして泣かせた。外見はそっくりでもニセモノはいつかはバレる。私達は真実を見抜く目と心を養いたいですね。(坊守)

☆心によりて 筆生ず(横山大観)

☆心によりて 筆生ず(横山大観)

☆宝相蓮華絵の格天井、八蓮華照明灯



### ☆ホットニュース

☆5月初旬新納骨堂が完成し入仏式をしました。5月25日の総会後一般公開します。個別納骨壇を24基設置しました。お問い合わせは善正寺まで。

☆5月25日(日)総会は55名(寺含む)の参加。2年後に控えた親鸞聖人750回法要への話がありました。

☆新年度総会後(6月)からの門信徒会会長に伊崎武男氏、会計に館勤氏が選出されました。女性部会長は館正子様。三重組連研受講者を服部則男様にお願ひしました。

☆カンパ有難う☆

富田和代様、澤田美智江様、本田和子様、他匿名様より頂戴しました。

☆編集子より☆

「善正寺だより」第二四六号をお届けします。◇一面でも触れた「日本創生会議報告書」の中に「地方元気戦略」が書かれている。元気の基は経済だけでなく精神面も重要。◇お寺が「地方の元気」に貢献できるのでは？合掌。

☆編集子より☆

「善正寺だより」第二四六号をお届けします。◇一面でも触れた「日本創生会議報告書」の中に「地方元気戦略」が書かれている。元気の基は経済だけでなく精神面も重要。◇お寺が「地方の元気」に貢献できるのでは？合掌。

☆編集子より☆

「シユウカツ」という言葉をご存知ですか？一般的に大学生の就職活動のことですが、私が言う「シユウカツ」は「終活」。残された人生の過ごし方や最期を誰に看取られるかという問題です。友人の年賀状に「今年こそ終活に励みます」と書いてありました。今でも寺参りには無縁だったので少しは仏法を聞く気になったのかと思いきや、彼女の終活は、身辺整理のことでした。「私にとって価値あるモノでも子供にはゴミ。全て処分するわ」「それならばあなただの生きてた証は何も残らないの？」「それでいいのよ。面倒なモノはゴミで、遺産さえ残せばいいと子供が言っているわ」親から子へと大切な心が何も伝わらない寂しい時代になりました。「終活難民」という本があります。「誰にも迷惑をかけたくない。ぽっくり死にたい」と願う高齢者が多くいます。しかし現実には厳しい老人ホームへ入りたくても叶わず一人暮らしの老人が増え、十分な介護も受けられないまま孤独死していくケースが急増中です。遠く離れた遺族は遺骨の受け取りさえ拒否。かつては地域で支え合ったお葬式も簡素化。行き場を失ったお骨やお守りをする人がいない仏壇が、後継者がいなくなると問題は深刻化。このようなことでご心配な方は善正寺にご相談下さい。お寺が新しいご縁作りの担い手となり安心して過ごして頂く道を提案します。残された人生、仏法を聞き、仏様と共に心豊かに生きていきたいものです。これが本来の「終活」と思っています。

合掌

善正寺坊守様

平成二十六年六月